

消防点検について

「点検報告制度」御存知ですか？

防火対象物の関係者（占有者・管理者・占有者）は、消防法に基づき設置された消防用設備等を定期的に点検し、その結果を消防長又は消防署長に報告することが義務付けられています。

消火器 自動火災
 報知設備 非常ベル

上記の他に「自動火災報知設備・スプリンクラー・誘導灯」等は消防法17条に基づき設置した消防設備は点検し、報告する義務がございます。

※消防法第17条の3の3

(消防設備又は特殊消防設備等の点検及び報告)

罰則

・点検結果を報告せず、
又は虚偽の報告をしたものは30万円以下の罰則又は拘留
(消防法第44条第11号)

・その法人に対しても上記の罰金
(消防法第45条第3号=両罰規定)

点検する人資格

◆ 消防設備士又は消防設備点検資格者

- 1 延べ面積1000平方メートル以上の防火対象物
- 2 地階又は3階以上の階に特定用途(物品販売店舗、ホテル、病院、飲食店など不特定多数の人が出入りする建物等)があり、かつ、階段が屋内1系統のみのもの(屋外に設けられた階段等であれば免除されます)

◆ 防火対象物の関係者

上記以外の防火対象物

(点検をする際は、告示で定められた点検基準に基づいて点検を実施するため、専用の工具や点検機器等の準備が必要となります)

※ 注意事項

消防用設備等の点検に伴い、消防用設備等を改修又は整備する際に、消防設備士でなければ行えない整備等がありますのでご注意ください。

(例) 消火器の消火薬剤の詰め替えは「消防設備士でなければ行えない整備」に該当します。

点検の種別と期間

◆ 機器点検(6ヶ月に1回)

消防用設備等の種類に応じ、消防用設備等の適正な配置、損傷、機能について、告示に定める基準に従い、外観又は簡易な操作により確認することをいいます。

◆ 総合点検(1年に1回)

消防用設備等の全部又は一部を告示に定める基準に従い、作動させ、総合的な機能を確認することをいいます。

<告示>

- ◆ 点検の種別、期間について

[平成16年5月31日消防庁告示第9号](#)

- ◆ 点検基準について

[昭和50年10月16日消防庁告示第14号](#)

点検報告書の作成

点検した結果を点検者一覧表及び点検票に点検者が記入し、[消防用設備等点検結果報告書](#)を作成します。

報告の期間

◆ 特定防火対象物 ……1年に1回

(例) 物品販売店舗、ホテル、病院、飲食店など不特定多数の人が出入りする建物

◆ 非特定防火対象物 ……3年に1回 (例) 工場、事務所、倉庫、共同住宅、学校、駐車場など

※樹楽では、半年に1回の機器点検、年に1回の総合点検をお願い致します。

<法令>

◆ 消防法施行規則第31条の6 第3項 第1号及び第2号

報告先

防火対象物の関係者(所有者、管理者、占有者)が、各消防署へ直接提出になります。[建物を管轄する消防署又は出張所](#)の窓口へ提出して下さい。

<注意事項>

管轄する消防署がわからない場合は、[最寄りの消防署または本部庁舎](#)へお問い合わせ下さい。

災害時の備蓄について

施設内の備蓄は準備していますか？

※災害時にライフラインが止まってしまった際には最低でも必要な備蓄はどのくらいか御存知でしょうか。

自宅等では、
一般的に **3** 日分必要であるとされております。

(条例等で **3** 日分の水・食料・その他必要物資の備蓄が努力義務としている市区町村もあります。)

上記を基に...

施設(樹楽)では最低でも何人分必要でしょうか。

A. あくまで、事業所としてですが、

利用者定員数+スタッフ人数

なぜ、**3** 日分なのか？

※震災が発生してから3日間は生存率が高いとされ、
4日目以降は生存率が激減することから震災後3日間は救助・救出活動を優先されます。

その為、その間に関しましては従業員等の一斉帰宅が救助・救出活動の妨げとならないよう、発災後最低でも3日間は施設待機をさせる必要があります。

Ex) この他、7日間の食料等の備蓄を持つように条例で努力義務としているところもございます。

それでは、どのくらい必要なのか。を次に説明致します。

3 日分の備蓄の目安

1.水については、1人当たり1日3リットル、計9リットル

水：ペットボトル入り飲料水

2.主食については、1人当たり1日3食、計9食

主食：アルファ化米、クラッカー、乾パン、カップ麺、おかゆ、ゼリー等

(注)水や食料の選択に当たっては、賞味期限に留意する必要あり

3.毛布については、1人当たり1枚

(注)あくまでも、目安です

4.その他の品目については、物資ごとに必要量を算定

その他の物資(特に必要性が高いもの)

毛布やそれに類する保温シート、簡易トイレ、衛生用品(トイレットペーパー等)、
敷物(ビニールシート等)、携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池、救急医療薬品類

スタッフの人数分も必要と考ええると、量が非常に多くなり、施設内での保管が難しくなります。一か所に全てしまうのではなく、何か所かに分けて保管するのはいかがでしょうか。

施設での適正備蓄は何日分でしょうか？

施設で保管できるだけの場所がない！と言って
備蓄を0とすることは災害に備えていません！ということになりますよね？

樹樂では7日分を推奨しております

施設よって適正数が異なりますが、大きく異なる事はないかと思います。

適正数はあくまでも、目安です。必ず、置かなければいけないと義務付けられているわけではございません。（努力義務となっております）

「努力義務」とされておりますが、災害はいつ起こるか分かりません。

本部としての推奨は7日ですが、どのくらいであれば施設にて保管できるのか、といった点も踏まえて少しずつ備えていきましょう。